

十二月号を閉じて、またもや一年が過ぎようとしていることを思う。おとなにとってはせわしい月日の歩みであった。四月に幼稚園にはじめて入園した子どもたちは、待ちに待って指折り数えてその日を迎え、

そして今や半年以上をも過ごしたのである。おとなにとっては毎年かわりばえのない日目のくりかえしであっても、子どもにとっては新しい経験の日日である。あの期待と不安と喜びをもって入園式を迎えた幼児たちは、いまだんな気持で毎朝目を覚ましているのだろうか。幼稚園にいったらこんなことをやろうと張り切ってきた子どもは、毎年かわりばえもなく同じ日目をくりかえしてきたおとなの手によって、灰色にかえられてしまうことはないだろうか。幼児に接するおとなは、子どもの毎日の生活についてゆくのにはほんとうに苦労するものである。何とかして子どもに満足のいく生活を幼稚園や保育園は与えたいものである。そのためにはどのような保育をしたらよいかということ、園長の、教師の、保育の、幼児教育研究者の共通の関心であると思う。ここにまた私どもが来るべ

き年にも引きつづいてとりくまなければならぬ課題がある。どうかほんとうに子どもたちの生活を考えるておられる多くの方々の激励と御協力をお願いする次第である。

本号では遊びを強調した記事が期せずして多くなつてしまつた。これはやはり幼児教育の中で遊びということは本質的な問題だからであろう。樋口氏の遊戯会についての考え方は多くの方々に考えていただきたい重要な問題である。幼稚園における保育者の一日の行動の記録を掲載することは、はじめの試みであるが、ことに保育の實際に当る方々に十分に御研究いただきたいと思う。幼児の遊びを具体的にどのように指導するかということはいへんむつかしいことだからである。文字からだけ見るのではわかりにくいけれども、ゆつくりとみていただければ御理解いただけると思う。原理的にも実際的にも、幼児の遊びという問題は本誌で扱うのにふさわしい問題であると思つている。その考え方や実際について、御意見や研究のある方は、どうぞ遠慮なく意見や論説をお寄せください。(丁)

幼児の教育 第六十卷第十二号

十二月号 © 定価 六十円

昭和三十六年十一月二十五日印刷

昭和三十六年十二月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いいたします。